

市民センターを考える市民の会

狛江市民センター増改築に関する提案書

素案発表会

開催記録



日時： 2016年（平成28年）2月6日（土）
14：00～16：00

会場： 狛江市 防災センター 4階

情報保障： 手話通訳・PC要約筆記

参加人数： 112名



狛江市民センター増改築に関する提案書素案発表会 開催記録目次

| | |
|---------------------------|----|
| ◆ 市民の会について（代表ごあいさつ） | 1 |
| 平井里美／市民センターを考える市民の会 代表 | |
| ◆ 狛江市からのごあいさつ | 3 |
| 高橋良典 さん／狛江市 企画財政部長 | |
| ◆ SMALL is COOL | 4 |
| 篠塚雄一郎／世話人 | |
| 深町知貴 / 東京大学 大学院生 | |
| 伊奈ゆう子／東京大学 大学院生 | |
| ◆ 人がつながる公民館 | 12 |
| 周東三和子／世話人 | |
| 青木香奈／世話人 | |
| ◆ 暮らしを豊かにする図書館 | 17 |
| 林 健彦／世話人 | |
| 苔米地茉莉子／世話人 | |
| ◆ 新しい市民センターの特色 | 23 |
| 重国 毅／世話人 | |
| ◆ 市民センター増改築に必要な財源についての考え方 | 27 |
| 小尾将彦／世話人 | |
| ◆ 市民センターを考えることから始まる地域づくり | 33 |
| 平井里美／代表世話人 | |
| ◆ 今後の予定 | 35 |
| 小島喜孝／世話人 | |
| ◆ 参考資料 | 36 |

◆ 市民の会について (代表ごあいさつ)



市民センターを考える市民の会

代表 平井里美

本日はお寒い中 「市民センター増改築案発表会」 にお越しいただき、ありがとうございます。

まず初めに、市民センターを考える市民の会の発足と目的についてお話しします。

**狛江・市民センター増改築案
発表会**

市民センターを考える市民の会



「市民の会」は、昨年2月に市と協定を結んで発足した、市民の自主的、かつ主体的な組織です。全国でも非常に珍しい、進歩的な市民の会で、「狛江市にふさわしい市民センター改修案を、市民が主体的に作成し、その実現をはかること」を目的としています。そしてもう一つの目的は、「市政に市民の意見を反映させ、市民と行政の協働のまちづくりを推進すること」です。

私たちはこの1年間、学習を重ねながら要望を出し合い、中間発表会やワークショップ、アンケートなどで、できるだけ多くの市民の方のご意見を聞き、増改築の提案をまとめているところです。

次に、どのようなメンバーがどんな活動をしているのか、少しお話ししたいと思います。

市民の会では、メールやファックスなどで、1月に2、3回ニュースを送っています。登録いただいているメンバーは220名。実際に会の運営にあたっている世話人は27名という大所帯です。純粋な市民の会ですから、立場や考え方は様々です。

納得いくまで対話をして進めるので、大変時間がかかりますし、もめたり、時には険悪になったりするのは、当たり前のことです。それでも、全員無償、それどころか、お金を出し合って、チラシを作ったり、講師を呼んだり・・・先日、ここ半年間のスケジュールを確認したところ、2日に1回以上どこかで何らかの会合があることに驚いてしまいました。

お互い何の利害関係もなく、ただこの市民センターを、公民館と図書館をいいものにして残したいという思いで、市民が全力を注いでいること。そしてそれを、市の職員の皆さんが、資料の印刷や会場の確保、広報誌への情報掲載など、オブザーバーとして支え続けてくださっていること。こんなことができる狛江は、本当に素晴らしいまちだと誇りに思います。

最後に、今日の発表会の位置付けについてです。

1年前、市民の会の立上げで講演してくださった上野千鶴子さんをはじめ、専門家の方々、研究者の方、社会福祉協議会の職員の方、文化財委員の方々、そして職員の皆さんにも、たくさんのアドバイスや励ましをいただき、やっと提案の概要をパワーポイントにまとめることができました。

本日は「市民の会の全体会」としてそれを発表させていただきます。そして、本日参加してくださった皆さんからのご意見をいただき、それを提案書に反映させて最終のまとめとし、3月末に文書で提案書を市に提出する予定です。その旨どうかご了承ください。そして、今後ともよろしくお願いいたします。

市の検討予定事項と市民の会の関わり

- 生涯学習・社会教育施設のあり方の検討
- 公民館・図書館の機能並びにサービス提供のあり方の検証
- 市の計画、財政状況の検証



市民の会がめざすもの

行政任せではなく、
多くの市民が知恵を出し合う
新しいかたちの市民参加、市民協働

◆ 狛江市からのごあいさつ



狛江市 企画財政部長
高橋良典さん

本日は、「市民センター増改築案発表会」ということで、みなさまの発表を聞かせていただきに参りました。市の職員として私以外にも数名、この発表を聞かせていただきます。

代表の平井里美さんからもお話がありましたように、昨年2月に市と市民センターを考える市民の会で協定書を結びました。市民の会のみなさまにおかれましては、この一年の間、各分科会でのご検討など、お忙しい中、市民センターについて考えていただきまして、誠にありがとうございます。

協定書にもありますように、3月に提案を出していただきます。市としましては、その提案を受けて、今度は市としての最終計画を策定していくことになります。市民の会のみなさまにおかれましては、提案を出して終わりということではなく、そのあと市として最終案を考えて行く上でも、ご協力をいただければと考えているところでございます。

市の課題は市民センターだけではございません。今の大きな課題としては、保育園の待機児問題があります。また、高齢化についても課題が多く存在しています。市としても限られた財源の中で、どのような形で、みなさまからの提案を尊重した計画ができるか、考えていかなければいけないと思っておりますので、きょうの発表を楽しみに参りました。

これが最後ということではなく、引き続き、市民の会、市民のみなさまと一緒に協力して進めて行ければと考えているところでございます。

◆ SMALL is COOL



世話人 篠塚雄一郎



東京大学大学院生 深町知貴



東京大学大学院生 伊奈ゆう子

「SMALL is COOL」については、(2015年)9月19日に開催しました中間報告会で、市民センターをどうするのかという基本的な考え方やコンセプトをお話しさせていただきました。

狛江がどういうまちなのかも考え、海外の事例などの話もしましたので、この部分については、きょうは簡単に触れます。



市民センターを考える市民の会

2016.02.06

その後、10月と12月に市民のみなさんにお集まりいただいて、ワークショップを2回開催し、こんな建物にしたいとか、やってみたいことなどを話し合いました。

そうした内容も含めて、基本的な考え方をまとめたのが、「SMALL is COOL」です。きょうは、一緒に活動してくれたふたりの大学院生が説明します。

ここでは、(1) 狛江の分析、(2) ワークショップのまとめ、そしてそこから導き出された (3) コンセプトについてお話しします。

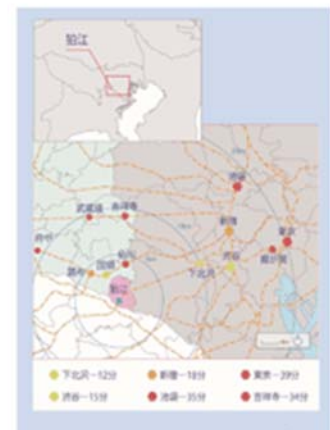
広域的な狛江の立地

狛江は小田急線等で新宿、渋谷まで25分程度と通勤利便性の高いまちです。都心に程近くありながら、多摩川や野川に囲まれ、狛江駅前には弁天池があるなど水と緑に恵まれた暮らしやすいまちです。

01 狛江の分析

広域的な狛江の立地

狛江は小田急線で新宿、渋谷まで25分程度と通勤利便性の高いまちです。
都心に程近くありながら、多摩川や野川に囲まれ、狛江駅前には弁天池があるなど水と緑に恵まれた暮らしやすいまちです。



駅周辺に公共施設が点在

狛江駅周辺には公共施設や公共用地が点在しています。駅周辺の割には緑も点在しています。公共施設は歩いて回れる場所にありますが、必ずしも有効に利用出来ていません。(300m圏内に集まっている。)

市民センター改修を機にこれらの有効利用策も検討すべきと考えます。

01 狛江の分析

駅周辺に公共施設が点在



ヒューマンファーストのまち

(人に優しい)

20 世紀のモータリゼーションに対応し、都市づくりは自動車交通を優先してきました。東京西部も例外ではなく多車線道路、歩道橋が多く存在します。

狛江市は市域が小さいこともありますが、大気汚染、騒音、振動の原因でもある4車線以上の道路が実質ありません。

道路による地域分断の象徴である歩道橋もありません。

01 狛江の分析

ヒューマンファーストのまち
(人に優しい)

多車線道路がないにも関わらず、道路率は比較的高くなっており、たくさんの道が張り巡らされており、歩いて移動しやすいまちと言えます。つまり、狛江は、ヒューマンファーストな（人に優しい）まちです。

顔が見えるまち

2車線の道路は反対側の歩道を歩く人を認識することが可能です。知り合いがいたら大きな声を出せば、呼び止められます。4車線以上の道路ではよほど目の良い人でないと、反対側の歩道を歩く人を認識することができません。仮に認識できたとしても、呼び止めることは出来ません。呼び止める気にもならないでしょう。

01 狛江の分析

顔が見えるまち



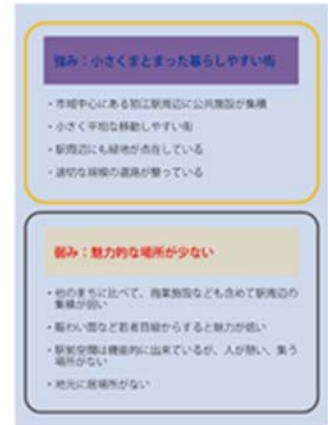
私たちの住む狛江は広い歩道を有し、Face to Face のコミュニケーションが取れるまちです。

狛江の強みと弱み

私たちが住む狛江は、都心からも便利な場所にありながら、多摩川をはじめとする水と緑に恵まれた暮らしやすい環境にあります。一方で、若者が集まるような場所がなく、他のまちに比べても、賑わいなどの面で魅力に欠けます。

01 狛江の分析

狛江の強みと弱み



強み：小さくまとまった暮らしやすいまち

- ・市域中心にある狛江駅周辺に公共施設が集積。
- ・小さく平坦な移動しやすいまち。
- ・駅周辺にも緑地が点在している。
- ・適切な規模の道路が整っている。

弱み：魅力的な場所が少ない

- ・商業施設なども含めて駅周辺の集積が弱い。
- ・賑わい面など若者目線からすると魅力が低い。
- ・駅前空間は機能的に出来ているが、人が憩い集う場所がない。
- ・地元に住場所がない。

ここまでは、中間報告会（2015年9月19日開催）で発表した内容です。

その後、10月31日と12月5日にワークショップを開催しました。小学生からご高齢の方まで幅広くお集まりいただき、どんな市民センターにしたいかについて、自由に意見を出していただきました。下記に列举してありますとおり、たくさんの意見を大きく3つに分類しました。

ワークショップ概要

- ・一回目
 - 2015年10月31日開催
 - 参加人数66名→どんな市民センターがほしいのか、自由に意見を出し合う。

- ・二回目
 - 2015年12月5日開催
 - 参加人数73名→より具体的にどういう風に作りたいか、どういものが欲しいのか議論する。

→様々な意見を3種類に分類



そして、それら3つの意見について、次の1から3で細かく紹介していますので、ご参照ください。

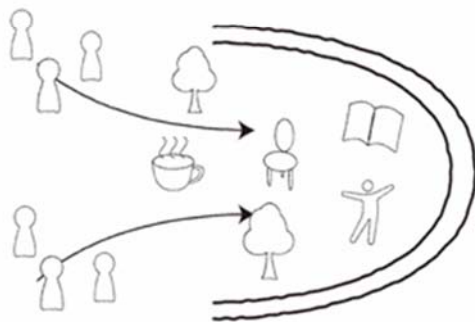
ふらっと立ち寄れる交流空間
 広くてゆったりとしたスペースのある図書館
 情報発信と提供、人をつなぐ機能
 小学生の居場所としてのサードプレイス
 拠点としての役割を担う図書館・公民館
 一人で自由に過ごせる場所
 狛江ならではの資料、サービス
 水と緑を活用
 開かれた居心地の良い市民広場
 色々な世代が集う、顔が見える
 入口が集いやすい、明るい開かれた場所
 静かな場所と賑やかな場所を分ける
 みんなが楽しい市民センター
 子どもと大人が一緒にくつろげる
 赤ちゃん用機能の充実
 日常から解放されるサードプレイス
 湧水や屋外空間活用
 緑の街に相応しい広場
 障がい者も外国人も若者も利用しやすく
 低未利用な場所の積極的活用
 スマートな予約システム

**開かれた狛江ならではの
市民センター**

**多世代・多様な市民が集う
みんなの市民センター**

**利用者が使いやすい
運営システム**

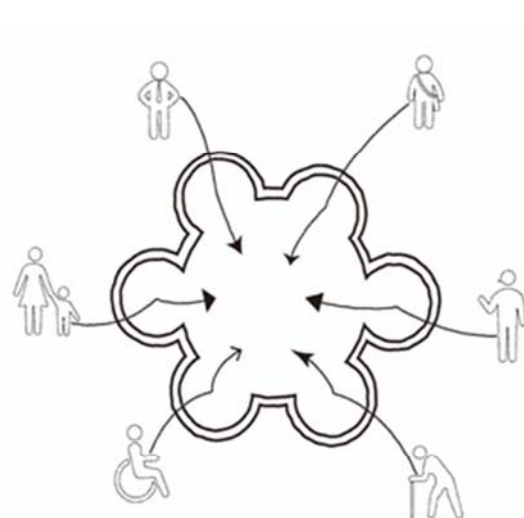
1. 開かれた、狛江ならではの市民センター



外に向けて市民センターを開く。
 内側では読書などの活動を、
 外との境目にはカフェや緑など入りやすくなるものを。

- 広場、エントランスを明るく、広く
開放的な空間に
 - ・広場にはイベントスペース
 - ・外光を取り入れる
- 居心地の良い、
市民の居場所(サードプレイス)を形成する
 - ・共有のフリースペースを設ける
 - ・屋上を有効活用する
 - ・屋上菜園、芝生広場
 - ・コミュニケーションを生むリビング
- 互いに活動が見え、
参加のきっかけを作る部屋に
 - ・放課後のような雰囲気
 - ・公民館の一部をガラス張りの部屋に
- 狛江のシンボル、水と緑を活用する
 - ・ケヤキを生かした市民広場の再整備
 - ・湧水の利用(発電、冷房用)
 - ・木を使った建物

2. 多世代・多様な市民が集う、みんなの市民センター



多様な人があつまる市民センターにする。
それぞれのニーズに特化した部分を通して、
多様な人々が集まる。

■ 子ども、中高生の居場所

- ・放課後を安全に過ごす場所
- ・ティーンズコーナーの確保
- ・大人との交流が生まれる場所

■ 親もくつろげる、子育て世代向けスペース

- ・親子でくつろげる読書スペース
- ・子育て中の親も読書出来る場所

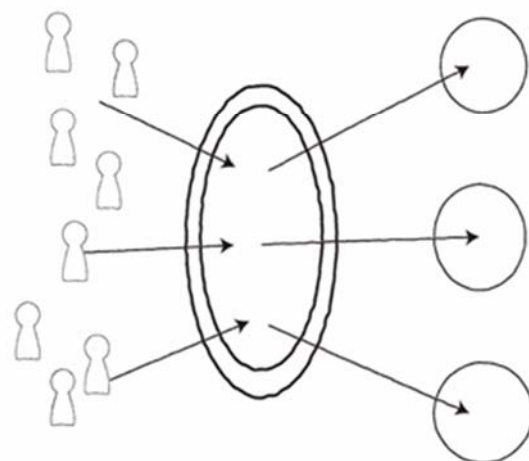
■ 外国人への配慮

- ・多言語の表記サイン
- ・異文化交流コーナー、外国語資料の充実

■ 高齢者や障がいのある方への配慮

- ・磁気ループの検討と、優先枠の設定
- ・緩やかなスロープ
- ・防音設備付きの録音室、対面朗読室

3. 利用者が使いやすい運営システム



運営システムを一元化することで、使いやすくする。
市民センターを通して他の公共施設の連携を強化する。

■ 利用をスムーズかつ活発にするための運営システム

- ・施設予約の簡易化と、多世代に対応した情報発信
- ・地域センターと一括で空室登録、予約できるシステム

■ いまある空間・機能を最大限活用する

- ・既存の公有地、公共施設との連携による利用スペース拡大（市役所、三角地、ビン缶センター、教育研究所）
- ・センター同士をつなぐ交通（バス、自転車）

■ 質の高い空間、サービスを持続させる

- ・にぎわいスペースと静かなスペースの分離
- ・共有スペースを見守り、質を担保する管理者、専門職員
- ・新規事業を応援する仕組みと人材の充実

ここからは、提案の全体に関するコンセプトをご紹介します。

SMALL is COOL というコンセプトは、今後の狛江のまちづくりのキーワードです。先ほどの狛江の分析で、狛江は小さくまとまっていると言いました。こういうまちだからこそ、できることがあると思います。

具体的には、駅から市民センターまで歩いて行ける。市民センターをみんなで作っていきける。SMALL is COOL のまちづくりで、市民センターは重要な拠点になると考えています。

03 コンセプト



17

03 コンセプト

Small is Cool



18

次のページのスケッチは、これまでのワークショップを踏まえた新しい市民センターのイメージです。大きく3つに分類された意見を、「ひらく」「わかちあう」「つなぐ」という言葉に置き換えて、それぞれの内容を具体的に提案しています。

ワークショップを踏まえた、 市民センター改修の考え方



■開かれた、狛江ならではの
市民センター

→**ひらく**

■多世代・多様な市民が集う、
みんなの市民センター

→**わかちあう**

■利用者が使いやすい運営
システム

→**つなぐ**

ひらく

広場とエントランス空間をつなげて明るく広々とした共用スペースをつくり、立ち寄りやすい雰囲気をつくれます。

特に目的がなくても訪れて、くつろげる空間をしつらえることで、市民センターは多様なひとが思い思いのかたちで過ごせる場所になります。

活動が見えるガラス壁

個室ごとに閉じていた公民館の活動を、来館者に見えやすくします。
視線や動線が重なることからちょっとしたつながりが生まれ、新たに活動に加わる機会が広がります。

用事がなくても、
ふらっと立ち寄りたくなる

自由で開かれた空間とすることで、用事がなくてもふらっと立ち寄れるようになります。

さまざまな講座

多様な講座を開くことで、新しい人が来るきっかけを作ります。

広場をまちに開く

現在閉じている広場をまちに対して開くことで、前を通った時に入りやすくなります。



湧水を生かして夏は水遊び

狛江の個性の一つである湧水を利用し、遊べるようにします。

大きなテーブル、ソファ 移動できるファニチャー

みんなで使えるものや、可変性のあるものを置いて、空間の自由度を高めます。

自然光を取り入れる 吹き抜けで解放感

光や高さをうまく取り入れることで空間を明るく開放的にします。

ゆったりくつろげる

自由な空間によって、何か活動をするわけではなく、ゆったりくつろぐような使い方もできるようになります。

ウチ、ソト一体

内と外の境界をひらくことで、中の人と外の人が空間を共有します。内外が入り混じった空間の使い方ができます。



わかちあう

限られた空間の中で、様々な活動が共存できるように過ごし方の質<静か/にぎやか>、<動く/話す>に応じて分割しなおします。

また、活動の規模<広い/狭い>に応じて、空間の可変性を高めます。

パーティションで緩く仕切る

空間の可変性を高めることで、大きさを活動のニーズに合わせることができます。



磁気ループ設置、貸出

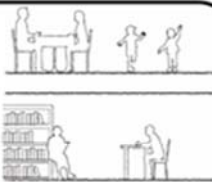
耳の不自由な方の活動の支援になります。

一人用の電気スタンド 会社帰りに立ち寄る

作業スペースを用意することで、会社帰りの人も立ち寄れるようになります。

静かな場所と賑やかな場所

活動の質によって空間の配置を考えます。お互いに干渉しあわないことで、最大限活動できるようになります。



統一された サインデザイン

分かりやすいサインデザインで、誰でも利用しやすくなります。

多言語表記

外国籍の方に対しても使いやすいようにすることで、多様な文化を受け入れます。

ベビーカー置き場

小さな子どもをつれて利用することができます。

車いすでもスイスイ

スロープや広いドア、通路などの工夫によって、車いすの利用者でも快適に過ごすことができます。

一人で/仲間と勉強

空間の配置を工夫することで、勉強のやり方にも選択肢が生まれます。



つなぐ

市民センターを核として、利用システムを市内の公共施設と一元化します。

また、隣接する市民広場/市庁舎/防災センターも、市民センターと一体的に活用します。

週末はマルシェ開催 クリスマスはイルミネーション

一体的に使うことで広くなったスペースを活かして、様々なイベントが開催できます。



子どもと大人を つなぐ場所

木工、昔の遊びなどのイベントを企画することで、大人と子供がつながります。

自転車をシェア

シェアすることで台数を減らし、広場を有効に使えるようにします。停める場所もまとめます。

表示掲示板を見て活動に参加

活動を掲示板に表示することで、参加のきっかけをつくり、人と人をつなげます。



粕江らしさの発表、展示

団体の発表や展示の機会を用意することで、多様な活動という粕江らしさが発信されます。

本の宅配サービス

来館が困難な方には宅配することで、来館しなくてもつながることができます。

ホームページで簡単予約

各施設の予約システムをつなぎ統合することで、予約を簡易にします。

開かれた事務スペース

事務スペースに相談しやすくなります。相談を通じて、職員が人との出会いをつなげます。

広場で野外ライブ

広場を使うことで、野外ライブも可能になります。発表の場が増えることで、活動同士のつながりが増えていきます。



◆ 人がつながる公民館



世話人 周東三和子
しゅうとう みわこ

ここからは市民センターをかたち作っている公民館・図書館の提案です。公民館は、私たちが健康で生き活きと暮らす学びの場、憩いの場、交流の場です。あらゆる人が生きていくために必要な学びをずっと続けられるための教育機関です。

生活に根ざした学びができるよう市町村が設置しています。暮らしや地域の課題を自分たちで考え解決していく。公民館で学んだり、活動する中で、生まれる人とのつながりが身近な問題に向き合う力になる。そんな場です。

人が地域で幸せに生きて行くことを支える、公民館はまちの元気につながる場所です。

公民館の利用登録団体は約750です。中央公民館の年間の延べ利用者数は約10万人です。

多くの利用者がある公民館ですが、利用していても公民館の役割を知らないひとも多い状態です。

問題点としては、
・部屋が取りにくい



世話人 青木香奈

公民館は

公民館は、私たちが健康で生き活きと暮らす学びの場、憩いの場、交流の場

暮らしや地域の課題を自分たちで考え解決していく

人が地域で幸せに生きて行くことを支える

→ まちの元気につながる



公民館の現状と問題点

利用登録団体(約750)

年間延べ利用者数(約10万人)が利用
でも、公民館の役割を知らない人も多い。

問題点

- 部屋が取りにくい
- 新しいグループが生まれにくい
- 居心地のいいスペースが少ない
- 青少年の居場所が不十分
- 市民同士の交流や市民参加の機会が少ない
- 生活課題の解決につながる学習が不十分

- ・新しいグループが生まれにくい
- ・居心地のいいスペースが少ない
- ・青少年の居場所が不十分
- ・市民同士の交流や市民参加の機会が少ない
- ・生活課題の解決につながる学習が不十分

などがあり、背景には、いま公民館に来ていない人、来られない人へのアプローチが不足していることや、利用者が自分たちの場所として、もっといいものにしていこうというつながりが不足していることなどが考えられます。

公民館の現状を打開し、くらしや地域の課題を解決していく、そういう市民にとってのセンターになるよう、人がつながる公民館を提案します。

人がつながる公民館を提案します



施設と仕組みの二つに分けて提案します。施設の提案からです。

今回新しく提案するのは「みんなに開放された空間、コミュニティスペース」です。ここは市民ひろばからつながる、図書館とも共用の市民センターの入口のスペースです。一人でふらっと来ても、グループの打合せにも、時には配置を替えてミニコンサートなどのイベントも行えるような空間です。ちょっと一息つける喫茶コーナーも提案します。

みんなに開放された空間 コミュニティスペース

談話・休憩コーナー
喫茶コーナー



展示コーナー
情報コーナー



また公民館事業の案内、サークルの情報、地域センターでの催しなど、ここに来れば必要な情報が得られるコーナー、活動の成果を展示するコーナーも考えました。郷土資料室の資料の展示なども行える場です。人と人がつながる、人と活動がにつながる場です。

同じく新たに提案するのが、赤ちゃんコーナー、授乳室、幼児コーナーです。子育て中の方たちが子連れで来ても安心して過ごせるコーナーです。子どもたちの居場所は現在2階ロビーと地下にフリースペースがありますが、もっと広く確保します。

また、主に青少年のための楽器を自由に使える防音室を新設します。学習自習室は図書館とも共用するスペースです。ひとりで静かに勉強できる部屋とグループでわいわい学習できる部屋と2つ作ることを提案します。

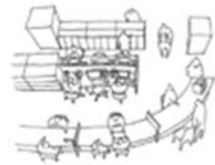
職員と市民がもっと気軽に話したり、相談に乗ってもらえるように事務室はオープンカウンターにしたらいと考えます。

赤ちゃんコーナー、授乳室
幼児コーナー

施設



オープンカウンターの
事務室



子どもの居場所
防音室(スタジオ)
学習自習室



37

現在あるものの拡充の提案です。多くの市民が音楽会や演劇、講演会などで利用できるよう、ホールを拡充します。現状のホールは壇があるだけですが、舞台をきちんと作り、控え室や舞台裏の通路などで、演劇や演奏会などが出来るようにすることを提案します。舞台、控え室は使わないときは、会議にも使えると考えます。

ホールを広げ
より多目的に

施設



舞台、控え室、
通路



床、鏡

38

また、ダンスなど利用の要望も多いので、それにふさわしい床にし、鏡の設置なども提案します。

公民館の大きな役割である学習の機会を保障するための部屋を充実させます。

講座室は、もう少し広くし、プロジェクターや音響設備の常設など充実を図ります。

また、部屋がとりにくいとの意見が多く寄せられています。公民館の活動がさら

講座室の拡張
設備の充実

施設



会議室を増やして
多目的に利用(+2部屋)



39

に活発にできるようにするため、現在4つある会議室を2部屋増やし、会議だけでなく、多目的に使えるよう提案します。

専用室を柔軟に利用できるようにします。和室は2部屋にわけても、大部屋でも利用できるようにします。料理実習室は調理台とテーブルを分けて、調理の後に試食会が出来るようにし、調理をしないときは会議室としても使えるようにします。美術室と工芸室を作り、イーゼルを立てられる部屋と陶芸などの部屋とし、窯は別室にして、使いやすくします。視聴覚室は現在も音楽の他にバレー、カラオケなど多目的に使われていますので、床を替えて、より使いやすくします。

専用室をより使いやすく、柔軟に

和室

2部屋に分けても、大部屋でも

料理実習室

調理台とテーブルは別に

美術室と工芸室

イーゼルを立てられる部屋と陶芸などの部屋に。

窯は別室に。

視聴覚室

床を覚えて多目的に使用

施設



32

公民館を利用しているグループの交流の場として団体活動室を拡張します。印刷室は別室にして、より使いやすくします。またこれまでの活動を蓄積した公民館活動資料室を新設して、経験、成果を生かせるようにします。

団体活動室

公民館活動資料室

施設

保育室



33

保育室は現在子ども室と呼ばれていますが、公民館の講座に参加する親が安心して学ぶことが出来るように、また子どもたちの育ちが保障されるための部屋です。子どもたちが過ごしやすいよう環境を整備します。

施設だけでは、公民館とは言えません。くらしや地域の課題を解決するためには、職員と市民の協力が欠かせません。

公民館の要は、事業や講座です。例えば、公民館に馴染みのない人たちや若者へアプローチする講座、今の社会の問題に向き合う講座が必要です。



34

そのためには、地域とのネットワークと、運営への市民参加が重要です。そして、広く市民に知らせる広報、例えば双方向のツールとなるホームページや利用者懇談会の充実。地域の情報センターとして、図書館との連携も大切です。

こういうトータルな取り組みが公民館を生きたものにします。

自分の「好き」を大事に、健康で生きがい。学びが暮らしに役立ち、豊かに生きる。自由に思ったことを言い合える場と関わり。いつでも、誰でも、ひとりでも。多様な価値観に出会い、お互いを大事にし合う。自分自身を大事に生きる。

こんな公民館が必要だと思います。

自分の「好き」を大事に、健康で、生きがい
学びが暮らしに役立ち、豊かに生きる
自由に思ったことを言い合える場と関わり
いつでも、誰でも、ひとりでも
多様な価値観に出会い、お互いを大事にし合う
自分自身を大事に生きる

こんな公民館を

「わたしの楽校（がっこう）・みんなの茶の間」

これまで分科会やワークショップで公民館について議論を重ねて来た中で、私たちが求めているのは、「学ぶのが楽しくなる、気軽に立ち寄り、おしゃべりができる。」そんな、開かれた公民館です。



わたしの^{がっこう}楽校
みんなの茶の間



◆ 暮らしを豊かにする図書館



世話人 林 健彦



世話人 苔米地茉莉子
とまべち まりこ

新しい図書館についての提案をいたします。私たちは「暮らしを豊かにする図書館」をめざし、それは「だれにとっても利用しやすい図書館」を探る中で見えてくると考えています。

最初に「狛江の図書館の現状と問題点」を見てみましょう。

2007年の市民アンケートでは、狛江の図書館は市内の公共施設の中でもっとも利用が多い施設です。しかし残念なことに、次の4つの問題点を抱えています。

第1は「スペースが狭い」ことです、私たちの会が昨年（2015年）7月に実施した「利用者アンケート」の自由回答では「ゆったり座って読んだり調べたりするスペースがない」が数多くありました。ベビーカーや車いすを利用するのが困難との声も聞かれました。

第2は「本・雑誌等資料の種類も量も少ない」ことです。開架の図書、つまり直接手にとって探せる書棚も少ないし、音楽や映像を楽しむ資料もありません。

暮らしを豊かにする図書館 だれにとっても利用しやすい



狛江の図書館の現状と問題点 図書館は「公共施設」の中では利用率が最も高い

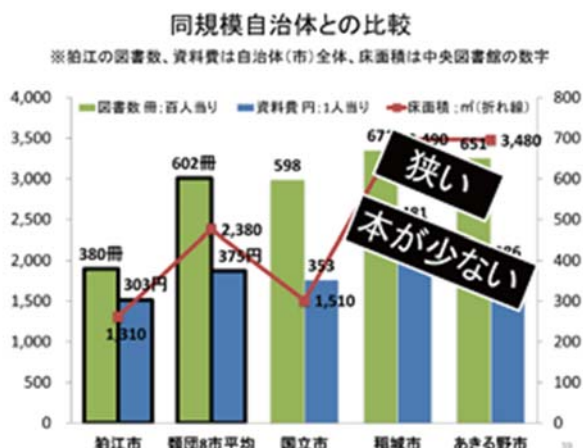
- **スペース→狭い**
ゆったり座って読んだり調べたりするのが困難
ベビーカーや車いすでの利用が困難
- **本・雑誌・新聞など→種類・量が少ない**
開架の図書が少ない。CD、DVDがない。
- **IT環境→ない**
インターネットの利用ができない。
持ち込んだパソコンが使いにくい。
- **サービス→不十分**
ティーンズ、シニア向けのサービスがほとんどない。
障がい者の方々が利用しにくい。外国人のための配慮に欠けている。



第3は、情報化時代にもかかわらず、IT環境が整っていないということです。現在備え付けのパソコンで自由にネットを利用することができませんし、パソコンの持ち込みは認められるようになりましたが、WiFi設備がありません。

第4は、きめ細かい図書館サービスが十分ではありません。子どもから高齢者まで世代に応じたサービス、障がい者や外国人といった図書館利用が困難な方へのサービスも十分とはいえません。

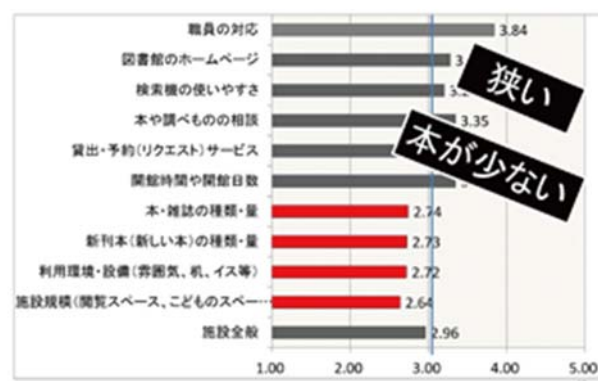
このグラフは、狛江と同規模の多摩地域8市の図書館データを比較したもので、黄色の棒グラフは市全体の人口当たりの図書冊数、青色部分は資料費（図書費）を表し、赤い折れ線グラフは中央図書館の床面積を示しています。8市平均と比べると、狛江市の図書館が「狭い」「図書が少ない」ことが裏付けられています。



次のグラフは、利用者アンケートで、現在の図書館の施設、資料、サービスの満足度を尋ねたものです。

このグラフは各項目について満足度を5段階評価で表したもので、真ん中の青い線、3が「普通」で、点数が低いほど満足度が低い。赤い部分がもっとも低く、不満は施設・設備と資料（本・雑誌）の種類・量に集中しており、ここでも「狭い」、「資料が少ない」が明白です。一番上の「職員の対応」は相対的に評価が高いことが分かります。

図書館施設、資料、サービスの満足度



次に図書館の役割、めざすものを見てみましょう。

図書館は、図書の館と書くくらいで、最も重要な役割は「資料・情報を提供して、ひとりひとりが自分で判断する力を育てる、サポートする」ことです。それが民主主義を支えることにつながります。お手元の資料、憲法の精神に基づいて図書館が「文化面で社会保障をになう場」といわれるゆえんです。言い換えると「いつでも、どこに住んでいても、だれでも気軽に利用できる市民のための本棚」を提供することです。

図書館の役割

- ・資料・情報を提供 → 判断する力を育てる
(文化の社会保障)
- ・市民のための本棚 ← いつでも、どこでも、だれでも
- ・地域の情報拠点 ← 暮らしに必要な旬の情報の提供

高齢者の居場所 & 子育て世代への対応

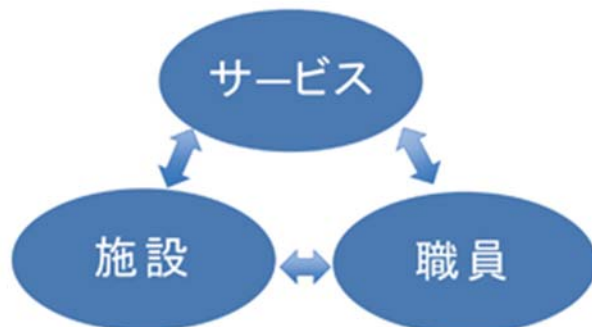
41

近年は「地域の情報拠点」ともいわれ、暮らしや仕事、地域の課題解決に役立つ情報の提供も強調されています。

最近の狛江市の人口動態を見ると、65歳以上の高齢人口が増え続けている一方、15歳以下の年少人口も増えており、今後は高齢者の居場所および子育て世代のニーズへの対応が重要と考えられます。

以上を踏まえ私たちは、ワクワクする図書館を提案します。それはサービス、職員、施設の3つの要素から成り立っています。次にそれぞれを見ていきます。

ワクワクする図書館を提案します



42

図書館サービスの提案の第1は、「明るく居心地のいい空間」、第2は「本・雑誌・DVD・CDの充実」です。

第3について少し説明しますと、「子どもからシニアまで多くの世代に対応し、さらに障がいのある方や外国籍市民にまで配慮した誰にとっても使いやすい図書館をめざします」。

サービス

1. 明るく居心地がいい空間
2. 本、雑誌、DVD、CDの充実
3. 子どもからシニアまでのサービス



例えば、子ども室やティーンズ・コーナーの独立、医療・健康、体力づくりなどをメインにしたシニア・コーナーの新設、障がいのある方に対してハード・ソフト両面で使いやすいよう配慮する。今ある外国語図書（英語・中国語・韓国語）を独立させ、日本（文化）を紹介する本も加えた「異文化交流コーナー」を設け、お互いの交流をはかるといったことも考えられます。

第4は「調べもの等のきめ細やかなサポート」です。

「調べもののお手伝い（レファレンス）」は貸出ほど知られていませんが、役に立つサービスです。気軽に相談できる窓口を設け、暮らしや仕事の疑問、悩みを資料面で応援する体制を整えることがだいじだと考えます。

4. 調べもの等のきめ細やかな
サポート

サービス

5. インターネット環境の整備

6. 狛江の特色を活かし発信



第5は「インターネット環境の整備」です。

第6は「狛江の特色を活かした情報発信」です。図書館は地域文化を育て、情報発信する場といわれます。狛江の昔と今、未来について、例えば水と緑のまちにちなんで、多摩川や狛江ブランド（農業）等に関係機関、市民グループとの連携、協働によってイベント、特集展示を行うといったことが考えられます。

サービス

7. 積極的な図書館活動

8. 利用者懇談会やボランティアの充実

9. 地域センター等の図書室を分館に

10. 本の廃棄・保存の在り方の見直し

第7は「積極的な図書館活動」で、新しい利用者を掘り起こすために必要です。

例えば、生活時間にあった運営ということで開館時間、開館日数の見直しです。また出前サービスの一つの宅配サービスに力を入れる、来館困難になる高齢者の増加が見込まれますので、もっと条件を緩和する、それにより職員の対応ではとてもということなら宅配ボランティアの養成を行うことも考えていいのではないのでしょうか。

第8は「利用者懇談会の開催やボランティアの充実」です。

第9は「地域センター等の図書室を分館」にです。地域センター図書室は当初分館としてスタート、途中から運営市民協議会が運営する今の形になりました。現在は正午からの開館で、子育て世代に好評のお話し会を開いていない図書室もあります。どこに住んでいても等しいサービスが受けられる本来の図書館サービスからはいかなものかと考えられ、いきさつはありますが分館に戻すべきだと考えます。それまでの間は、今以上にバックアップを強化する。また市内小・中学校にある学校図書館の支援もより強化が必要と考えます。さらには他の自治体の図書館との相互協力も大事です。

第10は「本の廃棄・保存の在り方の見直し」です。

次は職員です。1と2で示された職員が、利用者（市民）の立場に立って、利用者（市民）ニーズに寄り添った運営を行っていただきたいと考えます。そのためには専門性を磨く機会が必要で、研修の機会、業務や経験の継続、蓄積が保障されることが大切だと考えます。

職員

1. 利用者の質問や疑問を受けとめ、相談にのってくれる人
2. 本、新聞、雑誌、ネット情報と利用者をつなげてくれる人
3. 職員の研修
4. 図書館司書の採用

最後は、施設の提案です。

第1は「さまざまなタイプの読書スペース（コーナー）を随所に」です。例えば 閲覧机、仕切りのある机、書架脇のスツール、ソファのあるくつろぎコーナー等をあちこちに設け、利用者が目的や好みに応じて選べるようにする、今回の提案の目玉です。

施設

1. さまざまなタイプの読書スペース(コーナー)を随所に
2. 車いすに対応した通路、書棚
3. 独立した子どものスペース



第2は「車いすに対応した通路、書棚」

第3は「独立した子どものスペース」です。

第4は「ゆったりした新聞・雑誌コーナー」

第5は「CD・DVDの視聴ブース」です。

第6「防音設備のある録音室と対面朗読室」について説明します。対面朗読というのは目の不自由な利用者が、求める資料を朗読ボランティアに読んでもらうことで、地下の普通の部屋を他と共用で使っている現状では、何を読んでいるか漏れる恐れがあり、またボランティアの自宅録音では生活音が入る等問題があり、利用者や朗読ボランティアの方から強い要望が寄せられています。

必要なスペース（床面積）を計算するには、収容能力＝資料規模が重要で、資料（開架）数で開架スペース、書庫スペースが決まり、ついで全体の面積が決まります。現在凍結中の15年前の新中央館基本計画書、同規模他市のデータ比較等から蔵書冊数、開架冊数を表のように設定しました。資料は、現状の2.1倍、全体の面積は2.4倍となります。

新しい図書館の提案は以上です。

施設

4. ゆったりした新聞、雑誌コーナー

5. CD、DVDの視聴ブース

6. 防音設備のある録音室と対面朗読室



必要なスペース（床面積）

施設

| | 中央図書館の現状 | 提案 |
|------|----------|----------|
| 蔵書冊数 | 170,216冊 | 350,000冊 |
| 開架冊数 | 81,511冊 | 175,000冊 |
| 必要面積 | 1,310㎡ | 3,142㎡ |

新図書館基本計画書（1999）、同規模他市比較等より算定

約2.1倍

約2.4倍

◆ 新しい市民センターの特色



世話人 重国 毅

しげくに たけし

ここでは、市民センター全体にかかわることなど、市民の会で話し合ってきた諸々（もろもろ）のことをご紹介します。

まず、郷土資料室です。市民センターの地下にありますが、物置と言ってしまうと悪いのですが、うまく活用できていません。古墳時代の和泉式土器など貴重なものもあり、有効活用は今後の課題だと考えています。

約 40 年前の市民センター建設議論の際には、公民館・図書館・博物館が入った施設を造ろうという「3館構想」もあったそうですが、博物館部分については現在の郷土資料室となり、十分な役割が發揮できているとは言えません。市民の会として文化財関係の専門家にお話をお聞きした際に、貴重な文化財をしっかりと所蔵して活用できるようにしたいということで、問題提起がありました。

郷土資料室(博物館)



古墳時代中期の和泉式土器

- 現状
柏江の貴重な郷土資料の収蔵・活用が不十分
- 1970年代にあった「3館構想」
～ 公民館、図書館、博物館
- 設備充実、所蔵場所確保の検討
市民センターに展示スペース
むいから民家園との連携等の検討



市制50年など契機に、市内に常設施設(博物館)整備を

それは、所蔵場所を市民センターの中にさらに増設するのは難しいとしても、当面、市民センター内に「展示スペース」を確保しつつ、別の場所に所蔵場所を確保すること。また、同じような機能を持った「むいから民家園」などとの連携も含め、収蔵・活用を図ること。そして、博物館の新設についても、5年後の市制 50 周年にともな

う狛江市史編纂事業とも併せて、記念事業として整備できないかということです。市民の会としても、そうした内容を提案したいと思います。

次に、新しい市民センターのスペースについて、すでに公民館と図書館の紹介がありました。ここで数値的にまとめておきます。公民館・図書館の現状と提案は、それぞれ右の表のとおりで、新たに2,500㎡程度広くできれば、今の狛江に足りない部分を確保できるのではないかと考えています。なお、この面積には、倉庫・トイレ・階段などの共有部分は含んでいません。

新しい市民センターのスペース

| 現状 | 提案 |
|--------------------|------------|
| 公民館 1,443㎡ | 公民館 2,085㎡ |
| 図書館 1,310㎡ (公称) | 図書館 3,142㎡ |

- 倉庫・共用部分等は含みません。
- 郷土資料室は現状の広さを考えています。
- 新しい市民センターは、ユニバーサルデザインで。

52

建物の造り方については、現状の建物を基礎にしつつ、横に広げることや3階建てにすることなども含めて、市民の会でもさまざまに議論してきましたが、可能な構造や予算、近隣住民との関係もありますので、絶対にこういう形でないといけないということではなく、必要な機能や面積をしめすということで考えています。

増改築にあたっては、高齢者や障がいのある方々を含め、だれもが使いやすい「ユニバーサルデザイン」であるとともに、「私たちがつくる水と緑のまち狛江」のシンボリックなものともなるよう「エコ」な市民センターとすることを提案したいと考えています。これは、中長期的に考えて、冷暖房費の節約にもなります。

「エコ」な市民センター 「水と緑」・環境にやさしい市民センターに

まったなしの温暖化防止対策 ～ 冷暖房費節約にも ～

- ・ 地下湧水を活用した冷暖房(ヒートポンプなど)
- ・ 太陽光熱利用(ソーラーウォール、光ダクト)
- ・ 壁・ガラスの断熱・遮熱、みどりのカーテンなど
- ・ ZEB(ゼロ・エネルギー・ビル化)も検討
- ・ ぬくもりのある木材利用(小菅村の木材など)

53

その一つが地下湧水の活用で、市民センター地下には月に7,000m³(立法メートル)以上という、それなりの量の水が出ているとされています。専門家に伺ったところでは、水力発電に活用するには水量が少ない¹(※脚注参照)ようですが、地下水で水温が安定しており、冷暖房に利用できる可能性があることなども分かってきました。

¹ ※ この発表会(2016年2月6日開催)後に、市民センター地下の湧水量は、上記の数値よりずっと大きいことが判明しました。したがって、水量が少なく無理だと思っていた水力発電についても、引き続きその可能性を探っていく予定です。

そのほか、太陽熱を利用するソーラーウォールや、蛍光灯を減らせるよう外の光を取り入れる光ダクトなどの活用を含めたエネルギー消費の少ない建物（ZEB＝ゼロエネルギービル）をめざして、さらに研究していきたいと考えています。

狛江と友好都市関係にある（山梨県）小菅村の木材などで、ぬくもりのある市民センターになればとも考えています。

また、社会教育施設である公民館・図書館の入っている施設として、環境に配慮した仕組みが分かるような工夫や、環境学習のコーナー、多摩川の生き物が見られる水槽、親水スペースの設置なども提案したいと思います。

次に、他の施設との連携についてです。

今の市民センターは、部屋が足りなくて、思うように予約できずに困っています。その際、よく言われるのが、地域センター・地区センターなどとの連携です。現在の別々な運営形態のもとでは簡単ではない面もあるかと思いますが、部屋や施設の利用に融通が利くようなくみができればと考えています。

連携では、ソフト面も大切です。新設された市民活動支援センターは愛称も決まったようですが、公的な組織・施設として、市民の暮らしを支え、豊かにしていくという役割などで、市民センターとの連携の可能性も大いにあると考えます。協働を進めていければと思っています。

さらに、スペースの有効利用としては、市役所などの公共施設の会議室はもとより、突飛な発想かもしれませんが、市議会の議場なども市民活動に開放して、たとえば議場で映画鑑賞会などが開催できるようにするといったことなども可能にしてほしいと考えています。また、民間の空き家・空きビル・空き室の活用も検討できるのではないかと思いますし、これらは、市民センターの改築工事期間の対応としても、有効だと考えます。

環境を感じられる・学べる市民センターに

- ・ 省創エネの見える化
（湧水利用ミニ水力発電など）
- ・ 多摩川・野川の生き物水槽
（課題はお世話係）
- ・ 湧水を広場に回して親水空間を

54

連携で市民の活動をより充実

- ・ 地域センター、地区センターとの連携強化
- ・ 市民活動支援センターとの連携
空室の相互利用、運営、出張講座、共同事業なども
- ・ 市役所内会議室や議会議場など公共施設の開放
- ・ 民間の空き家・空きビル・空き施設の利用
→ 増改築工事期間の対応としても有効

「空室がない」は 市民活動の大きな制約

55

最後に、公共施設について学習・議論をおこなうなかで、若者や高齢者、子育て中の市民などが、もっと気軽に交流し、さまざまな悩みごとを相談できる場所・窓口が、身近で公的な場にあればよいのという要望も出されています。市民センターですべてができるものではありませんが、市民センター増改築、他の公的施設・機能との連携などのなかで、こうした要望をかなえることもできればと思います。

◆ 市民センター増改築に必要な財源についての考え方



世話人 小尾将彦

狛江市の財政がどん底で、財政破たん寸前だった平成 17 年度から平成 26 年度までの 10 年間の財政状況の推移と変化について、主な指標や数値と多摩 26 市の順位をまとめてみたのが、下記の表です。平成 26 年度は、狛江市の財政にとって、再建に向けて節目となるような年であったといえそうです。

＊13 年振りの経常収支の黒字化・・・ まず、代表的な財政指標である経常収支比率が、平成 13 年度以来、13 年ぶりに黒字になりました。100 を越えると赤字、100 を切ると黒字ですが、平成 26 年度は、98.2%で、2.5 億円の黒字でした。
平成 17 年度は、10.9 億円の赤字でしたから、平成 26 年度との経常収支の改善額は、13.4 億円でした。家計のやり繰りと同じで、13 年ぶりに黒字になったのです。多摩 26 市での順位も最下位の 26 位から 18 位になりました。

平成17年度から26年度までの10年間の財政指標や 数値の変化と多摩26市順位の比較

- ・ 平成26年度から財政改善が顕著に
- ・ 経常収支比率の黒字化＜平成13年度以来13年ぶり＞
- ・ 市税の徴収率の大幅改善＜多摩26市順位3位に＞
- ・ 市債残高の減少⇒公債費の減少＜10年ぶりに25億円以下に＞

| <p=ポイント> | | | | | 多摩26市順位 | | |
|---------------------|--------|-------|--------|----|---------|-----|----|
| | H17 | H26 | 増減 | 評価 | H17 | H26 | 評価 |
| ① 赤字債を含まない経常収支比率 | 108.6% | 98.2% | △10.4p | ◎ | 26位 | 18位 | ○ |
| ② 赤字債を含まない経常収支(億円) | △10.9 | 2.5 | 13.4 | ◎ | | | |
| ③ 赤字債を含む経常収支比率 | 100.2% | 91.0% | △9.2p | ◎ | 25位 | 8位 | ◎ |
| ④ 市民税の徴収率 | 92.5% | 98.1% | 5.6p | ◎ | 24位 | 3位 | ◎ |
| ⑤ 市債残高(億円) | 245.1 | 207.2 | △37.9 | ○ | | | |
| ⑥ 市民1人当たり市債残高(千円) | 322 | 262 | △60 | ○ | 25位 | 23位 | △ |
| ⑦ 公債費(億円) | 25 | 23.7 | △1.3 | ○ | | | |
| ⑧ 公債費負担比率 | 12.8% | 15.7% | 2.9p | × | 25位 | 24位 | △ |
| ⑨ 積立基金残高(億円) | 5 | 16.4 | 11.4 | △ | | | |
| ⑩ 市民1人当たり積立基金残高(千円) | 7 | 21 | 14 | × | 26位 | 26位 | × |

＜狛江市の「財政のあらまし」等より＞

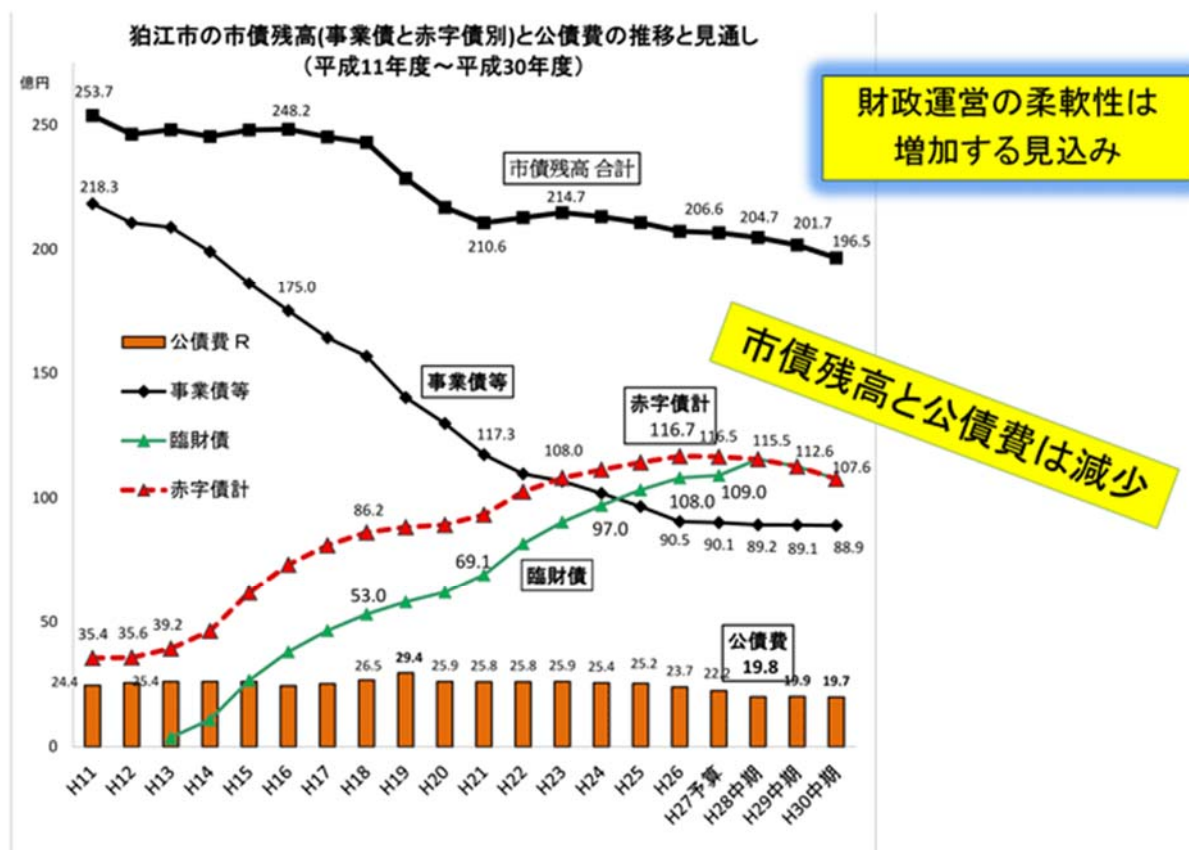
＊市民税の徴収率の大幅改善・・・平成26年度の徴収率は98.1%で、平成17年度の92.5%より5.6ポイント改善。多摩順位も24位から3位になりました。市民の協力もありましたが、市側の努力も相当あったはずです。徴収率の改善で5～6億円の増収になっています。

＊市債残高の減少⇒公債費の減少・・・市債残高が減少につれて、公債費（借金の返済額）も減少しました。平成26年度には、10年ぶりに25億円の壁を破って、23.7億円となりました。公債費は、今後も減少し、平成30年度には、20億円を割る見通しです。25億円から20億円となれば、5億円の新しい財源の創出ということになります。

＊ただし、課題はある・・・狛江市の積立基金（＝貯金）は、まだ充分ではなく、多摩順位もまだ26位（最下位）のままであるのは課題です。

以上、課題はあるものの、「狛江市の財政は悪い」と言われ続けてきましたが、平成26年度あたりを境にして、改善方向に向かっていると言えるのではないかと思います。

＊市債残高は減ってきた・・・次のグラフを見ていただければ、253億円のピークから、だんだん借金は減ってきて、平成30年度には、200億円台を割って196.5億円になる見通しです。



***赤字債も減少・・・** 平成 13 年度から急増し、平成 23 年度には 108 億円になった赤字債も、平成 26 年度の 116.7 億円をピークに減少に転じる見込みです。ピークからわずか4年で 110 億円台を割り込む見通しです。

***公債費も減少・・・** 長く続いた 25 億円の公債費も、平成 28 年度には、20 億円を下回る見込みです。

このように、市債残高＝借金も減少し、借金の返済である公債費も減少してきますので、財政運営の柔軟性が今後増加する見込みです。

狛江市の財政は、「悪い状況」から脱却してきているということを数字をベースに説明してきました。 狛江市が平成 24 年 11 月から導入した「中期財政計画と財政規律ガイドライン」が、適切に策定され、ガイドラインに従って運営されてきたことが、有効に機能してきたと思っています。

その主な内容は：

- * 毎年見直し（ローリング）
- * 市債発行の抑制（特に赤字債）
- * 3 年後までの財政見通しの明示
（平成 27 年度版は平成 30 年度まで見通す）
- * 公債費の（借金の返済）の減少
- * 余剰金の 1/2 以上を積立基金に

以上ですが、特に 3 年後までの財政見直しは、市の方向性を明らかにしており、財政が着実に健全化に向けて動いていることが見えてきます。

● 中期財政計画と財政規律ガイドラインの効果

H24年11月に初めて策定

- ・ 毎年見直し(ローリング)
- ・ 市債発行の抑制(特に赤字債)
- ・ 3年後先までの財政見通しを明示
- ・ 公債費(借金の返済)の減少
- ・ 余剰金の1/2以上を積立基金に

H30年度から財政規律を見直す予定

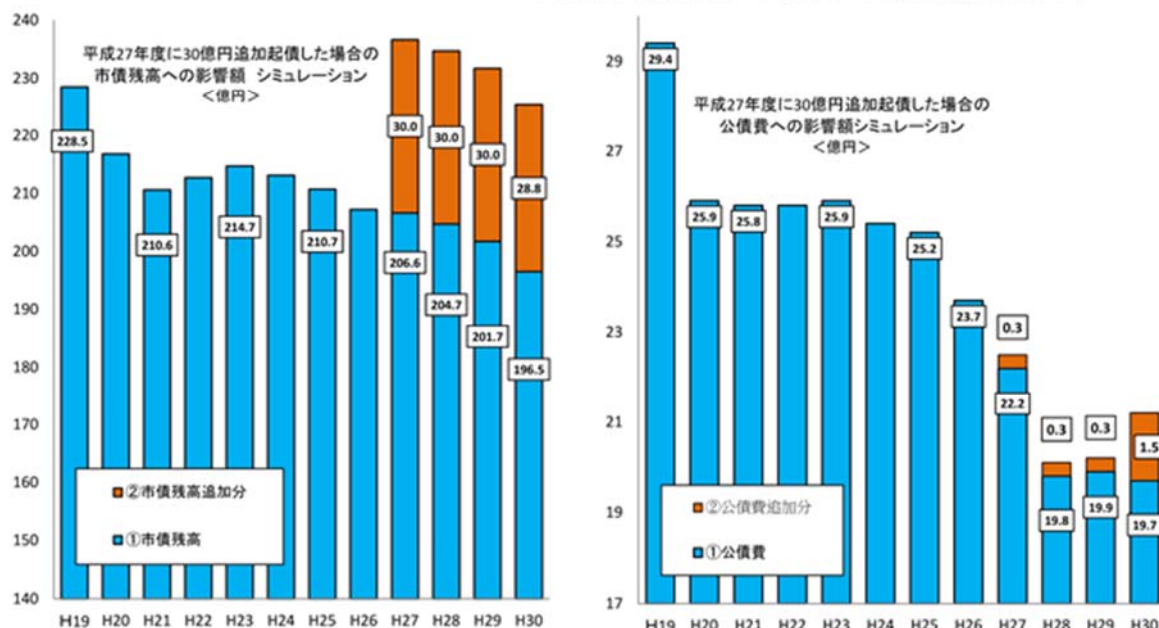
市側も平成 27 年度のローリング版で、市の財政が好転することを想定して、平成 30 年度以降は、市民ニーズに応えるために、財政規律を見直す予定である旨を述べています。これにはまったく同感であり、いつまでも財政規律にこだわる必要はなく、財政基盤や抵抗力が備わってきたら、公共施設の整備等も検討すべきだと思います。

平成 30 年度までの中期計画に基づく市債残高と公債費の推移を、次ページの 2 つのグラフの青い棒グラフで示しています。平成 27 年度に新たに 30 億円の追加市債の発行をした場合の市債残高（左側グラフの茶色部分）と借金の返済である公債費（右側グラフの茶色部分）を試算したものです。

***市債残高への影響・・・** 借金は確かに 30 億円増えますので、平成 27 年度の市債総額は 236.6 億円になり、平成 19 年度あたりまで逆戻りします。確かに借金が増えることは、いいことではありませんが、それが、ただちに財政に大きな影響が出てくるということではありません。

● 30億円の追加起債をした場合の 財政への影響度シミュレーション

* 3年据置・25年償却・年利率1%・償還開始平成30年



***公債費への影響・・・** 影響があるのは、市債の借金増の返済分が、どれだけ負担増になるかということです。そこで、3年据置、25年償還、年利率1%という前提で試算してみますと、償還が始まる平成30年度は、元利合わせて1.5億円の上乗せということになります。それまでの市債分も合算すると、21.5億円となりますが、平成27年度の公債費22.2億円よりは、少ないレベルに収まります。わずか3年後戻りするだけです。多分経常黒字も維持できるのではないのでしょうか。

市債残高は増えるものの、

公債費(借金の返済)はあまり増えず、
大幅な財政悪化とはならない見込み

*** 年利 1% のレベル・・・** 至近の市債の利率は、0.6% となっていますので、そのレベルよりは高目に見ています。最近マイナス金利という制度が導入されましたが、今後、金利は更に低くなるかもしれません。

30 億円の追加起債をしても、その分の借金の返済の増加分としての公債費は、1.5 億円であることが検証できましたが、借金は少ないほうがいいことに間違いなく、新たな財源の創出のために、次の 4 つのアイデアを提案します。

*** 市民センター増改築基金の設・・・** 決算で余剰金が出た場合は、その一部をこの特定基金に積み増していくことです。中学校給食センターや岩戸地域センターなど他の公共施設の場合は、公共施設整備基金に事前に積み立てて充当し、借金の額を抑えました。

*** ふるさと納税制度の活用・・・** 確定申告して納税する場合、納税分の使途を「市民センター増改築基金」に指定して、市民としても協力していただくことです。目標額は 5,000 万円としました。もちろん一般募金も募集します。

*** 国や都の補助金の最大活用・・・** 例えば、建物がエコ関連の設備を備える場合は、国の補助制度の活用が期待できそうです。

*** 資源物集団回収の推進を市民協働で・・・** あまり知られていませんが、資源物の集団回収を町会や集団住宅や 20 世帯の市民団体で、市が指定する集団回収業者に実施してもらえれば、その団体にキロ当たり 10 円の報奨金が市から出されます。私の属する町会は、10 年前から実施しています。なお、集団回収といっても、資源物を市と同様に、戸別回収をしてくれる業者もいます。更に、市による回収費用や、ビン缶センターでの選別作業などもなくなりますので、市の資源物回収経費に比べて経費は、約 1/3 になります。現在、市内の約 1/4 の地域で実施されており、毎年約 3,000 万円の経費節減の成果が出ています。実施地域を 1/2 の地域まで拡大すれば、毎年 5,000 万円以上の経費削減が実現しますので、市民協働で目標を定めて、積極的に拡大することを提案します。

以上のように、借金が少なくなってくると、借金の返済も少なくなってきましたので、新たな借金をしても、財政の抵抗力が相当増してきました。これまでとは状況

新たな財源創出のアイデア

・ 市民センター増改築基金の設立

例：給食センター・岩戸地域センター・三島保育園等

・ ふるさと納税制度の活用

→ 納税の際、使い道を指定 <目標額：5000万円>

・ 国や都の補助金の最大活用

→ エコ関連 ZEB等

・ 資源物集団回収の推進を市民協働で

→ 5000万円以上の清掃費の経費削減

43

が違ってきていることを検証してみました。確かに保育園待機児童など、まだ問題はたくさんありますが、中期計画では、そういった課題は当然想定して、財政の見通しに織り込んで策定していると理解しています。

なお、30 億円の市債追加を選んだ根拠は、2 つあります。まず、10 億円、20 億円の追加起債を試算しても、あまり大きな影響はないことがわかったということです。もうひとつは、1 年前に、市が市民センターの改修計画（改修費約 5 億円）の提案と説明をした際、市民から、市民センターを建替えた場合は、どの位かかりますかとの質問に対して、30 億円位との回答があったからです。

なお、（発表会当日に会場から）この説明は楽観的すぎるのではとの質問がありましたが、特に楽観的でも悲観的でもなく、市が策定した中期財政計画の数値に基づいて試算した結果ですので、ご了解ください。

◆ 市民センターを考えることから始まる地域づくり



代表 平井里美

「市民センターを考える市民の会」はこの1年、150回以上の会合を持ち、公民館、図書館のあり方、市民センターの増改築をどう提案するかを議論してきました。多くの方々と出会い、協力を得て、つながりを育み、信頼関係を築いてきたのです。

価値観の違う人々が、一生懸命考え議論する中で、異なる意見を排除することがないように常に気をつけながら、一人ひとりの意見が大事にされるよう心がけてきました。

会議のあり方や、プロセスが 本当に民主的なものかどうかを、常に確認し合い、お互いがどうすれば納得できるかを問いあいながら進めてきたこと、このプロセスはとても強い信頼を私たちにもたらせてくれました。このつながり、この関わりこそが、私たち市民センターを考える市民の会が求める「地域づくり」なのです。

皆さん、イメージしてください。ふらっと訪れた 広場やカフェ。音楽や本、講座から、グループやサークルが生まれ、そこから「地域」「社会」へと繋がっていきます。

私たちの「市民センターの増改築の提案」は、このぐらい増築してほしい！とか、新築してほしいとか・・・単なるスペースを広げてほしいと提案するのではなく、今後、市が増改築

市民センターを考えることから始まる地域づくり

- 市民が主体となって、市と共に進める公共施設づくり
「つながり」と「信頼関係」がベースとなって
「地域づくり」が始まっている
- 議論の中で、一つひとつの意見が大事にされ、
異なる意見を受け止めるプロセス
お互いの納得
まちづくりへの参加意識、当事者意識へとつながる

04



に当たって必要な調査をし、プロポーザルやコンペなどを行いながら、市民と専門家と行政が一緒になって、市民センターの増改築を進めていくこと。その、お互いの顔が見える「市民協働」のあり方こそが、最も大事だと提案するものです。

このような市民協働は、Small is Cool. ～掌に収まる規模の狛江だからできること、他市に誇れるまちづくりなのではないでしょうか。

狛江市民憲章には「互いに信じ、助け合い、連帯のあるまち」「教養を高め、文化が芽生え育つまち」と謳われていますが、市民のこうした活動によって、生きていくのだと思います。

私たちが市に提出した提案が、もっともっと広く市民に提示された時、その時には、きょう来てくださったみなさんもぜひ参加していただき、大いに盛り上がりましょう。

これで私たちの発表を終わります。ご静聴ありがとうございました。

◆ 今後の予定



世話人 小島喜孝

これからのことについて、何点かお知らせします。

1. 提案書の市への提出

現在、提案書をまとめております。そのエッセンスを今日発表させていただきました。さらに本日のご質問・ご意見を踏まえて3月中に仕上げてまいります。このあとも、何かご意見がありましたら FAX または Eメールでお寄せいただきたいと思います。

市民の会のホームページからご記入いただけます。締め切りは、提案書作成の関係から、2週間後の2月20日(土)とさせていただきます。

2. 市民の会と市との関係

市民の会は、お手元資料の協定書にありますように、提案を市に提出した時点で市と市民の会の協定に基づく関係は終了します。

3. そのあとは、どうするか

さきほど、冒頭にご挨拶いただいた狛江市の高橋企画財政部長さんもおっしゃったように、「提案してハイさよなら」では無責任でもあります。これまでせっかく市と市民の協働で進めてきましたし、「市民センター」はまさに市民協働にふさわしいテーマですので、提案後も市と協働していく会が必要と考えています。

3月中に提案書を市に提出する段階で、あらためて「提出報告会」のようなものを開く予定ですので、そのときに、提出後の市と市民協働する会について、市民の方々にご検討いただくことにします。そのご案内は、市民の会のホームページや e-会報などでお知らせします。

4. さいごに

市民の会は、きょうの発表と質疑討論、2月20日までにご意見などをふまえて、最終的に提案書を練り上げてまいります。以上をもちまして、これからのことについてのお知らせとします。どうもありがとうございました。

市民センター増改築案発表会資料 市民センター(中央公民館・中央図書館)関係法規等

◆ユネスコ学習権宣言 (1985 年、第4回ユネスコ国際成人教育会議、於パリ)

学習権は未来のためにとっておかれる文化的ぜいたく品ではない。

それは、生存の欲求が満たされたあとに行使されるようなものではない。

学習権は、人間の生存にとって不可欠な手段である。

もし、世界の人々が、食糧の生産やその他の基本的人間の欲求が満たされることを望むならば、世界の人々は学習権をもたなければならない。

もし、女性も男性も、より健康な生活を営もうとするなら、彼らは学習権をもたなければならない。

もし、わたしたちが戦争を避けようとするなら、平和に生きることを学び、お互いに理解し合うことを学ばねばならない。

◆日本国憲法 (昭和 21 年公布)

第 25 条(生存権)

すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。

2 国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。

第 26 条 (教育を受ける権利)

すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。

2 すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負ふ。義務教育は、これを無償とする。

◆教育基本法 (昭和 22 年公布、平成 18 年改正)

第 12 条(社会教育)

個人の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によって奨励されなければならない。

2 国及び地方公共団体は、図書館、博物館、公民館その他の社会教育施設の設置、学校の施設の利用、学習の機会及び情報の提供その他の適当な方法によって社会教育の振興に努めなければならない。

◆社会教育法 (昭和 24 年公布)

第5章 公民館

第 20 条 (目的)



公民館は、市町村その他一定区域内の住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。

◆図書館法（昭和 25 年公布）

第 1 条(目的)

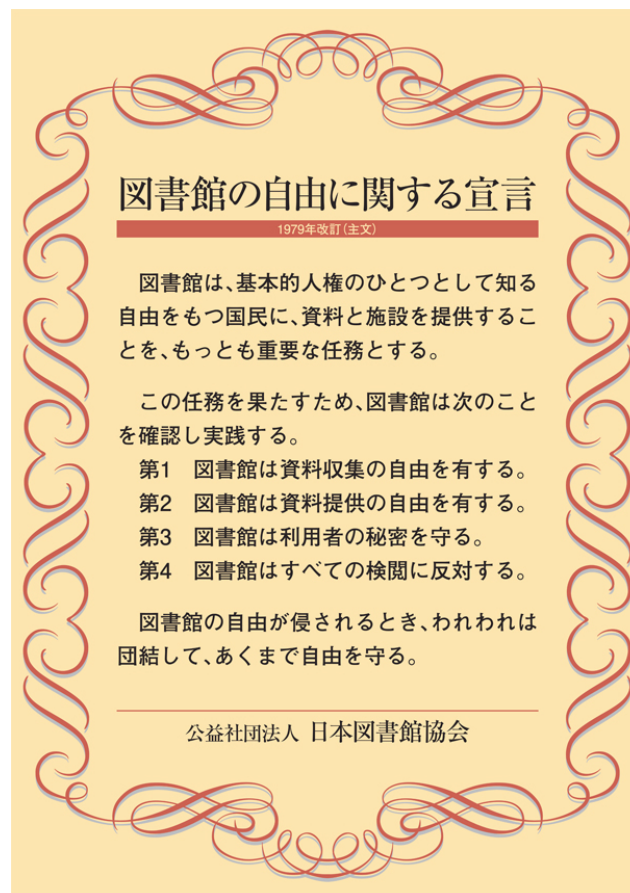
この法律は、社会教育法（昭和二十四年法律第二百七号）の精神に基き、図書館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もって国民の教育と文化の発展に寄与することを目的とする。

第2条(定義)

この法律において「図書館」とは、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設で、地方公共団体、日本赤十字社又は一般社団法人若しくは一般財団法人が設置するもの(学校に附属する図書館又は図書室を除く。)をいう。

第 3 条(図書館奉仕)

図書館は、図書館奉仕のため、土地の事情及び一般公衆の希望に沿い、更に学校教育を援助し、及び家庭教育の向上に資することとなるように留意し、おおむね次に掲げる事項の実施に努めなければならない。(以下略)





市民センターを考える市民の会
提案書素案発表会開催記録

2016年2月12日発行

表紙イラスト：青木香奈

編集者：市民センターを考える市民の会 世話人会

発行者：平井里美

発行所：市民センターを考える市民の会

<http://www.komae-tokyo.org/shimin/>

FAX: 03-3430-1402

Email: shimin@komae-tokyo.org